

農福連携養蜂講習会 みつばちシンポジウム 2025 第1部 開催報告書

「やさしい養蜂」の指導者を育てるために



農福連携養蜂講習会 ミツバチシンポジウム2025 第1部 開催報告書

「やさしい養蜂」の指導者を育てるために



一般社団法人みつばち協会
2025.2.7開催

目CONTENTS次

はじめに

高安和夫 一般社団法人みつばち協会 代表理事2

ご挨拶

渡部 淳 一般社団法人農福連携協会 総務部長4

農福連携をめぐる情勢

佐久間千恵 農林水産省農福連携推進室 課長補佐5

農福連携養蜂がメンタルヘルスや
社会参画支援に与える影響

森 実紀 志學館大学人間関係学部 講師 10

里山活動に養蜂が加わることでの
相乗効果

渡辺 宏 株式会社ビーハイブジャパン 獣医師 16

やさしい養蜂のはじめ方について

春日住夫 有限会社春日養蜂場 代表取締役 22

【活動報告】

①NPOスマイルベリー 静岡県浜松市 30

②ガンバワーク 神奈川県大和市 32

③富谷中学校成田教室と
NPO法人SCR 宮城県富谷市 34



一般社団法人みつばち協会
代表理事

高安和夫 Takayasu Kazuo

はじめに

本資料は2月7日に開催されたミツバチシンポジウム2025 第1部 農福連携養蜂講習会の報告書になります。

この講習会は、農福連携の養蜂の全体が理解できるように組み立てました。

養蜂は初期投資も少なく、畑や田んぼと比べると必要な土地面積、スペースも少なくてすみます。また、蜂蜜がしっかり収穫できるようになれば、蜂蜜は高価で販売できますので、工賃向上にもつながります。

いいことづくめですが、ネックは養蜂技術の習得です。

そして、養蜂技術の習得と同時に、担当職員の方、また担当される利用者さんのモチベーションの維持がとても重要になってきます。

その点、今回の講習会では、事業者さんの取り組み次第では、利用者さんがやる気と生きがいの創造や社会との接点づくり、そうした福祉事業として求められていることが養蜂

で実現できる、成功事例をもとにお話ししたいと思います。

また、養蜂が及ぼすメンタルヘルス、社会参画については、専門家の先生からお話をいただきます。

そして、養蜂技術については、本日は限られたお時間ですので、福祉事業所で養蜂をする場合、このようにやったらいいですよ、という、実例を含めて養蜂家の方からお話をいただきます。

農福連携の養蜂に関わらず、養蜂を始めるときには安全に配慮して、参加する利用者さんが楽しく取り組めるような、そうした「やさしい養蜂」を目指して、私たちはこの研究事業を進めてきました。

ぜひ、この「やさしい養蜂」を皆さんに導入していただきたく、今日の講習会にご参加いただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いします。

開催報告

農福連携養蜂講習会 ミツバチシンポジウム 2025 第1部

〔開催日時〕

2025年2月7日（金）
9:45 ～ 12:30

〔開催場所〕

中央区立環境情報センター及びリモート
東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン6階

〔参加者〕

158人（会場参加26人、リモート参加132人）

〔開催プログラム〕

開会挨拶

一般社団法人みつばち協会 代表理事 高安和夫

来賓挨拶

一般社団法人日本農福連携協会 総務部長 渡部 淳氏

〔講演〕

①農福連携をめぐる情勢

農林水産省農福連携推進室 課長補佐 佐久間千恵氏

②農福連携養蜂がメンタルヘルスや社会参画支援に与える影響

志學館大学 人間関係学部 講師 森 実紀氏

③里山活動に養蜂が加わることでの相乗効果

株式会社ビーハイブジャパン 獣医師 渡辺 宏氏

④やさしい養蜂のはじめ方について

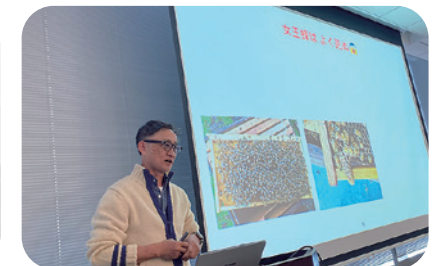
有限会社春日養蜂場 代表取締役 春日住夫氏

〔活動報告〕

① NPOスマイルベリー（静岡県浜松市） 職業指導員 豊田一朗氏

②ガンバワーク（神奈川県大和市） 代表 黒木啓之氏

③富谷中学校西成田教室とNPOSCR（宮城県富谷市）NPO理事長 村上幸枝氏





一般社団法人日本農福連携協会
総務部長

渡部 淳 Watanabe Jun

ご挨拶

本日は素晴らしいシンポジウムにお招きいただきまして、本当にありがとうございます。日頃からのみつばち協会の皆様、参加していらっしゃる皆様方の連携推進に対するご尽力について、深く敬意を表したいと思います。

本日のミツバチシンポジウムは、ミツバチと農業、そして福祉との連携という大変重要なテーマに焦点を当てていただいております。近年の農業分野における農福連携、特にこの10年ぐらいの期間は、国の大切な施策として推進されることにより、大きな広がりを見せているところです。それと歩みを共にして、福祉と養蜂の関わりというの、みつばち協会の皆様のご尽力によって大きく広がりを見せており感謝しているところでございます。

特に、障害のある方々が農業に関わっていく中で、養蜂は大変、大切な養素を多く含んでいると考えています。障害のある方々、様々な特性によって生きづらさを持っています。例えば、自閉傾向の方の心理的な不安定さを、動物あるいはミツバチに関わることによって心の安定を維持することができます。農福連携の中で、最も大切な要素なのではないかと考えているところです。

また、農福連携は障害のある方の社会復帰と、社会へのつながりというところからスタートしたところですが、そのほか、様々な生きづらさを抱えた方々を社会につなぐとい

うことも今、実践されているところです。1点、私の方からご紹介したいと思っていましたのが、農業を通じて刑務所を出られた方々と社会とのつながりをつくっていきこうという活動です。栃木県にある刑務所、喜連川社会復帰就労センターで、養蜂が刑務作業の一部として実践されています。まずは、養蜂見学し、ハチミツの生産作業に関わりながら、その後、農家の作業に受刑者の方々も関わっていく。そういった人たちが再び社会の中で活躍する手段の一つとして、養蜂が大変重視されていると伺っております。

このように様々な生きづらさのある方々が社会へつながる、そしてミツバチが社会、そして自然の調和を保っていくという様々な効果があります。今後も皆様の知見を集められ、そして交流が生まれることによって、更なる化学反応が生まれて、より強く実践されていくのではないかと考えております。私も、農福連携を推進する者としても、これからミツバチ、養蜂に携わられている方々と協力をしながら、農福連携による地域創生へと繋がっていくよう活動を進めたいと思っております。

最後に結びとして、一般社団法人みつばち協会の皆様、関係者の皆様、皆様の活動の更なる発展を祈念して、私からのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

農福連携をめぐる情勢

農林水産省農福連携推進室
課長補佐

佐久間千恵 Sakuma Chie

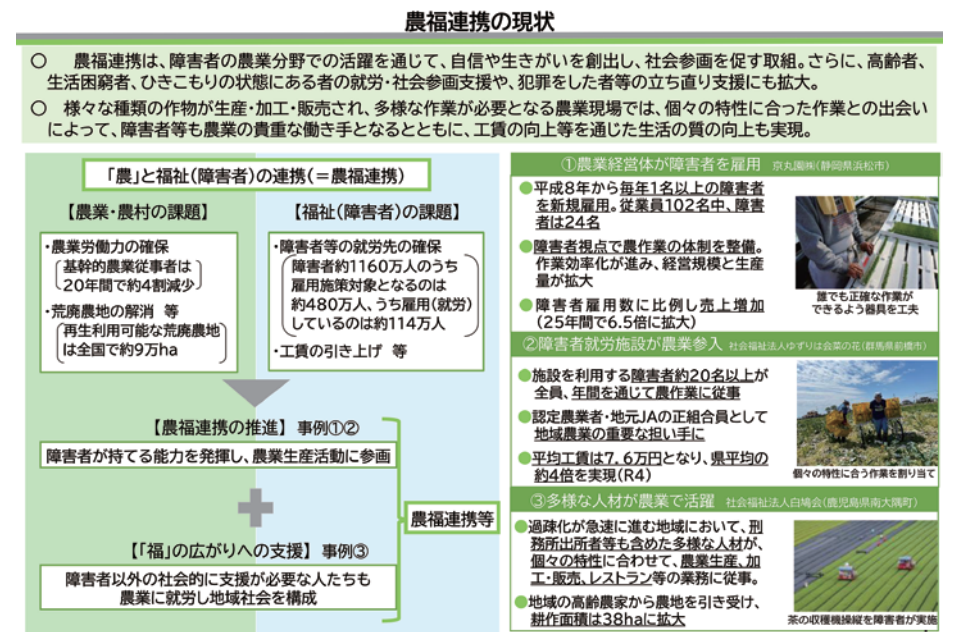
農福連携をめぐる情勢として、今年度は、「農福連携等推進ビジョン（2024年改訂版）」の決定や、「食料・農業・農村基本法」に農福連携に関する条文が新設されるなどの大きな動きがありましたので、その内容を中心に説明します。

障害者・農業経営体ともにプラスの効果 （資料01）

農福連携は、障害者の農業分野での活躍を通じて、自信と生きがいを創出し社会参画を促す取り組みです。農業、農村が抱える農業

労働力の確保、荒廃農地解消などの課題と福祉（障害者）が抱える障害者等の就労先の確保、工賃の引き上げ等の課題に対して、農福連携に取り組むことで、農業にとっては障害者が貴重な働き手となり、障害者にとっても工賃の向上などによる生活の質の向上の実現に寄与する取り組みと考えています。

令和5年3月に行われたアンケート調査では、福祉サービス事業所からは農福連携に取り組むことで障害者の体力がついて長時間働けるようになった、表情が明るくなった、といった回答がありました。農業経営体からは、障



害者等が貴重な戦力となった、労働力が確保されたことで営業等の時間が増加した、といった回答をいただいています。両者ともにプラスの効果を実感している結果となりました。

「農福連携等推進ビジョン（2024改訂版）」の決定

農福連携の歩みについて簡単にご紹介いたします(資料02)。農業経営体や福祉事業者による農業分野での障害者就労は、先進的なところでは昭和の時代から進められてきましたが、国の計画に「農福連携」という言葉が初めて使われたのは、平成28年に閣議決定した「ニッポン一億総活躍プラン」です。その後、農福連携を強力に推進していくため、令和元年に「農福連携等推進ビジョン」が農福連携等推進会議で決定しました。その後、地域ごとの課題への対応や認知度のさらなる向上に向けて、令和6年の6月5日に「農福連携等推進ビジョン（2024改訂版）」が、内閣官房長官を議長、副議長として厚生労働大臣、農林水産

大臣、法務省、文科省を構成員に含む関係4省連携のもとで決定されました。

改訂版ビジョンの決定を受け、林内閣官房長官からは「農福連携は、全ての人々が地域で暮らし、多様な形で社会に参画し、その生きる力や可能性を最大限に発揮できる地域共生社会の実現に資する取り組みである」ことや、「地域で広げる、未来に広げる、絆を広げる、を新たなスローガンとして、政府一体となって、官民を挙げて取り組んでいく」とのご発言をいただきました。

「農福連携等推進ビジョン（2024改訂版）」の概要（資料03）

3つのスローガンのうちの1つ目である「地域で広げる」では、地域協議会や伴走型コーディネーターの活動を通じて、地域単位の推進体制づくりを後押ししていきたいと考えています。市町村を含み、農業、福祉などの関係団体が一体となって、協議会のような地域単位の体制をつくり、農業と福祉のネットワークづくり、地域内の農福連携のルール

づくり、それからマッチングなどといったようなことを行うことで、地域内の課題に応じて農福連携の取り組みを推進していく大きな後押しになると考えています。

2つ目の「未来に広げる」では、11月29日を「ノウフクの日」に新たに制定し、農福連携等のさらなる展開、普及に取り組んでいきたいと思っています。初めて迎えた令和6年のノウフクの日には、首相官邸に農福を实践されている団体の代表者や、障害者に集まっていただいて、官房長官、それから関係4大臣との交流会を開催し、その様子は新聞等でも取り上げられました。

3つ目の「絆を広げる」については、障害者のみならず高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある方、犯罪をした者等、地域で働きづらさや生きづらさを感じている社会的に支援が必要な方たちの農福連携等への参画推進や、農業体験活動を通じて多様な社会的課題の解決につながる場としての、ユニバーサル農園の拡大に向けて取り組んでいきたいと考えています。

また、今後の具体的な目標として、2030年度までに農福連携等の取組主体数を1万2000件以上、地域協議会に参加する市町村数を200以上とする目標を掲げています。

また、今年度の6月5日に改正「食料・農業・農村法基本法」が公布、施行され、第46条に障害者等が農業活動を行うための環境整備を進め、地域農業の振興を図る旨が新たに盛り込まれました。

農福連携に取り組んでいる主体数は、令和5年度末時点の調査によると、7,179件です。令和元年度からこの4年間で3,062件増加しています。改訂前のビジョンでは、令和6年度末までに新たに3,000件創出するという目標を設定していましたので、目標を1年前倒して達成しました。

農水省のソフト・ハード支援

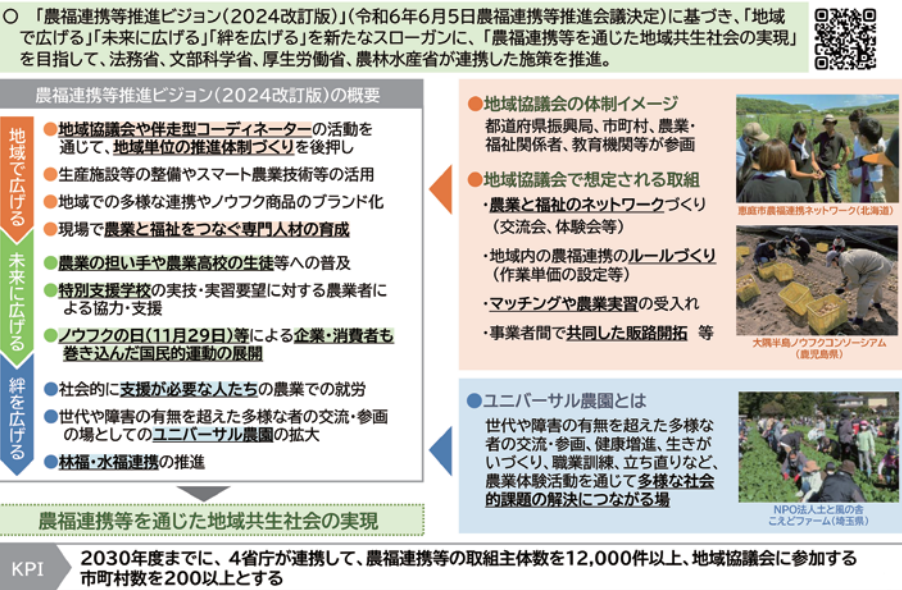
農水省では農山漁村振興交付金で農福連携に関する支援をしています（資料04）。令和7年度予算の概算決定額としては約74億円の内数になります。

農福連携の歩み



資料02

農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)に基づく施策の推進方向について



資料03

事業メニューには、「地域資源活用価値創出推進事業」（ソフト事業）と「地域資源活用価値創出整備事業」（ハード事業）の2つがあります。

ソフト事業では、技術の習得、分業体制構築のための研修の費用、図や写真を使った作業手順のマニュアル作成費などに支援が可能です。

ハード事業では、農業生産施設など、農福連携を実施する際に必要な整備費用への支援、休憩所やトイレの整備費などへの支援が可能です。国から直接、農業法人、社会福祉法人等に交付金を支援する流れになっています。要件等もありますので、詳細についてお知りになりたい場合はお近くの農政局に問い合わせていただきたいと思います。

この場でぜひお伝えしておきたいのが、農福連携を地域で広げるための取り組みに対する支援で、令和7年度から支援対象となります。

先ほど、「地域で広げる」で触れた地域協議会を設立し体制を整備するにあたって必要な経費を支援できるものになります。例えば、地

域協議会の先進地を視察する場合の旅費交通費、あるいは関係者が集まって意見交換をするための会場費等に支援が可能です。事業実施期間は3年間で、そのうち交付金で支援できる期間は最大2年間で上限額は300万円/年です。（1）事業実施3年目までに地域協議会に参画し、新たに農福連携に取り組む主体を3主体以上増加させること（2）事業実施3年目までに活動計画を策定すること、といった要件があります。ぜひ活用に向けてご検討ください。

農福連携の推進に向けた取り組み

農福連携を推進するために、令和2年度から「農福連携技術支援者育成研修」を全国共通の枠組みとして実施しています。「農福連携技術支援者」とは、農業者、障害福祉サービス事業所の支援員、障害者本人の3者に対して、農福連携の現場で実践する手法をアドバイスする人材です。研修は農業、福祉それぞれについて講義を3日間程度、演習・実地研修を4日間程度受講していただき、必要な知識と技術

を身につけたと認められた方は、農福連携技術支援者として現場で活動してもらうことが可能になります。国家資格ではありませんのでご注意ください。研修テキストは農水省のHPで公開しておりますので、ご興味ある方はぜひご覧ください。

次に、「農福連携等応援コンソーシアム」についてご紹介します（資料05）。農福連携を全国的に展開させ、各地域で定着させるためには、国だけでなく地方公共団体、関係団体はもとより、経済界、消費者、さらには学識経験者などの様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として推進していくことが重要と考えています。そのため、令和2年3月に各界の関係者が参画して農福連携等を応援するコンソーシアムを設立しました。会員は随時募集しており、令和6年12月末現在で592の団体・企業が参画しています。入会について、ぜひご検討いただきたいと思います。

コンソーシアムの活動の1つである「ノウフク・アワード」では、全国で農福連携に取り組む団体・企業や個人を募集し、優れた取

り組みを表彰しています。2020年から開催し、5年間で延べ109件が受賞しています。これまで受賞された取り組みについては、農福連携の特設サイトでご覧いただけます。

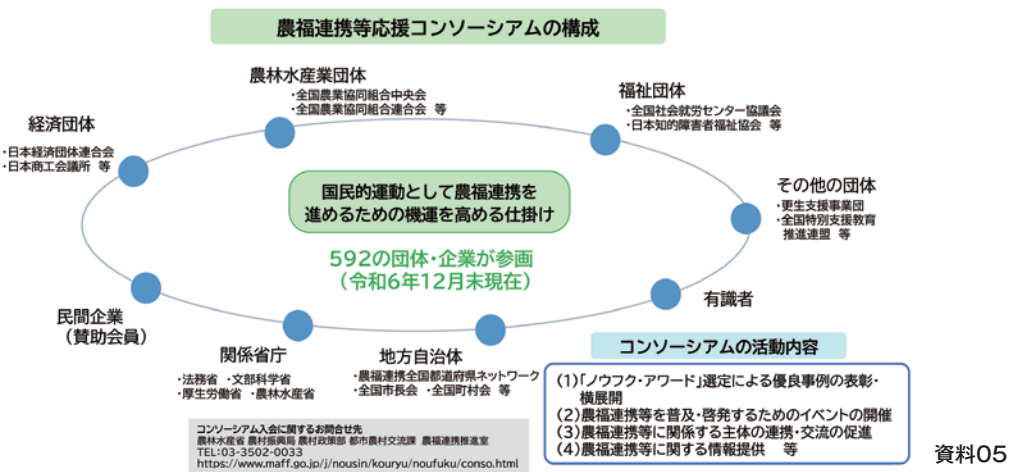
続いて、ノウフクJASは、障害者が生産行程に携わった生鮮食品、これを原材料とした加工食品、障害者が生産行程に携わった観賞用の植物を規格化したものです。ノウフクJASは、品質を規定するのではなく、障害者が生産行程に携わったということについて、第三者の認証を受けた場合にノウフクJASマークを表示することができます。

ノウフクJASのシールを付けた商品が出回ることで、消費者の目に留まりやすくなり、農福連携の食品の信頼性が高まって、人や社会環境に配慮した消費行動を望むような購買層に訴求することが可能になるほか、農福連携の普及にも寄与することが期待されています。

私からは農福連携をめぐる情勢について、ご説明させていただきました。引き続き、農福連携の推進に向けて、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

農福連携等応援コンソーシアムの設立

- 国、地方公共団体、関係団体等とはもとより、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として農福連携等を展開していくため、令和2年3月、各界の関係者が参加し、農福連携等を応援するコンソーシアムを設立。



資料05

資料04

農福連携養蜂がメンタルヘルスや社会参画支援に与える影響



志學館大学
人間関係学部 講師
森 実紀 Mori Miki

ミツバチの素晴らしさを日々実感

農福連携がメンタルヘルスやユニバーサルな社会参画支援に与える影響ということでご報告できたらいいかなと思っています。私は鹿児島市にあります志學館大学というところから参りました。国家資格の精神保健福祉士の養成とか相談業務を行いながら、心の健康ですとか、社会的包摂をテーマに研究しています。養蜂にはボランティアの方で「みつばちの学校」に関わらせていただいております(資料01)。そこでのみつばち協会の高安さんたちとの出会いによって、養蜂とメンタルヘルスの影響について視察し、勉強させていただいているところです。

ミツバチに関わることによって、自然というものに関わっていくことが本当に人間とし

て大切だと改めて感じさせていただいています。土づくりもとても大事ということで、ミツバチが喜ぶ畑や土をつくって、良い環境を整えることが、お野菜とか、私たちが生きていく上で必要なものというものを作っていく、全部がつながっているということを再認識にさせられる日々です。

そういった中で、農福連携というところに養蜂が加わることによって、どれだけ私たちがハッピーになれるか。もっと広められたらいいなと思いながら、いろいろ調べたり、勉強させていただいています。法務省、文科省、厚生労働省、農林水産省の方々が連携して、農福連携というものをどんどん広めようという動きがあるということは大変嬉しく思っています。その中で、農福連携に養蜂が加わることで、いろんな可能性があるということ

をお伝えしたいと思っています。

ミツバチは花粉の媒介者として、世界の主要農作物の4分の3以上は収量や品質の面で、多少なりとも動物による媒介に依存しています。そして、コーヒーが大好きな方もいらっしゃると思いますが、コーヒーとかココアとかもミツバチたちによって作られている、関わっているんだということです。そして、人間にとって健康的な食事や栄養に関わっているんだということです。食料供給にとどまらず、人間に様々な恩恵を与えているということがミツバチの素晴らしいさということを改めて学んでいるようなところなんです。

精神保健福祉士は心の病気に関わることが多いんですけれども、薬とかいろんな治療とか出てきますけれども、自然との繋がりがっていうものがだいぶ希薄になってきているなということも感じます。土に触ったことがない子どもたちも増えてきていることもあります。そういった中で、動物であったり、自然に関わる農業に関わることで、人間性を回復することにも繋がってくるんだろうというふうにも思います。私自身も学生にもどんどんこういうことを伝えていかないといけないんだと思うところです。自然の大切さをどんどん伝えていきたいと思っています。

この養蜂活動を調べていく中で、皆さまには釈迦に説法のようなことになってしまうんですけれども、養蜂活動の特性としては、(1)

巣箱の管理、ミツバチの巣箱の清掃や修繕(2)ミツバチの蜂蜜を採る(3)これらの作業は利用者さん、施設にいらっしゃる方とか、精神疾患を持った方にとって、情緒の安定や集中力の向上に役立つところかなりあるんじゃないかと思っています(資料02)。

自然とのふれあい「あすなろ学園」

実際、みつばち協会の高安さんと今年の夏と一緒に北九州市の「あすなろ学園 障害者支援施設 母原」さんの視察に行かせていただきました。自然を活用した障害者支援の一環として、養蜂活動が5年以上前から行われているところです。施設の入所さんは生活支援を目的とした、特に屋外での活動に力を入れられています。巣箱が2種類ぐらい設置されて、今は蜂が集まっていらないようなこともあるんですが、今年の夏の状況なんですけれども、透明にして中の状態が見えるようになっていて、利用者さんたちが「ハチさん頑張ってるね」というような感じで様子が見えるようになっていて、とても楽しい活動になっているとお聞きしました。皆さん本当にわくわくしたような感じで記録をとったり、特性を生かしながら活動されている様子がよくわかりました。施設長の吉田さんは本当にパワフルで、「福祉はまちづくりなんだ」「障害を持っている方が社会を変えるパワーがあるんだ」とおっしゃっていて、熱い方だなと。こ



資料01

養蜂活動の特性

- 1 巣箱管理**
ミツバチの巣箱の清掃や修繕など、繊細で規則的な作業を行う。
- 2 蜂蜜採取**
ミツバチが生産した蜂蜜を慎重に採取する作業を行う。
- 3 情緒安定と集中力の向上**
これらの作業は、利用者の情緒の安定と集中力の向上に役立つ。



資料02

ういった方たちが、各地方で頑張ってくださっていることで、日本が元気になってほしいなとも思います。

養蜂活動の後に、利用者さんから「外の空気がとても気持ちよかったです」とか「みんなで蜂を飼っているのが楽しい」とか、蜂蜜を食べるようなこともされていて、とてもいい流れになっているような状況でした。本当に笑顔が増えたり、口数も増えたという感じで、この活動を心待ちにしている様子がとてもよく伝わってきました。

写真に写っているのですが、Aさん（資料03）は養蜂に関わることで、アマゾンで『ミツバチの飼い方』を自分で注文したようです。Bさんは、日々の活動をカメラで一枚一枚撮って、簡単な言葉なんですけれども、「こういうことをしました」とか「みんなで楽しく蜂蜜を採りました」というようなことを書いていたりするような状況で、本当に利用者さんにどんどん変化が現れているということをお話してくださいました。

別の利用者さんなんですけれども、「前は暗い色の絵を描いていたけど、ミツバチと関わることによって色がどんどん鮮やかになっていって、とてもきれいになっていってるんです」ということをおっしゃっていました。それだけですね、自然と関わることによってみんなメンタル的にも、こういった色使いにも表れてくるんだと思います。また、関わって

いる施設のスタッフの方も、利用者さんに関わることによって、自分自身も楽しくなってきましたというようなこともおっしゃっていました。それだけ、この自然とふれあう活動が、心と体の健康や社会性の向上に大きく貢献してるんだということを示している施設だと思います。

心身の安定と社会的自立支援「ゆくさ」

続いては、鹿児島市の就労支援B型施設「ゆくさ」さんです（資料04）。ミツバチの学校でも関わらせていただいているところですので、お花の植栽作業とか土を作ったりとか、一緒にお手伝いしていただいたりしている時もありました。お花を作ることによって、ミツバチたちがたくさん来るような環境を作ろうと関わってもらっているというような感じなんです。夏に行われたプログラムで、利用者さんが花を植えて、ミツバチの生活環境を整えたり、巣箱の管理を行ったり、それぞれの役割に積極的に取り組んでいる。そして、その巣箱の管理を体験する中で、自然とのつながりも感じて、活動を楽しんでいる様子が見受けられました。言葉は少なめなんですけれども、ここでも「ミツバチさんが元気に働いてました」とか「ミツバチをとるのがとても楽しいです」というような感想をたくさんいただきました。言葉が本当に伝わってきました。そういう養蜂活動が利用者にとって、自己

肯定感を高めるきっかけや作業を通して達成感を得られるということも伺えると思います。ゆくささんの取り組みも、障害者の心身の安定とか社会的な自立を支援するための有効なプログラムになるのではないかと考えています。

セラピー的効果も持つ活動

そして、養蜂のリラクゼーション効果というところで、「あすなろ学園」では、「空気が気持ち良かったです」とか「楽しかった」というポジティブな感想が聞かれたり、「ゆくさ」さんでも養蜂活動や花を育てることによって、「自分がミツバチさんや地球のために役立っているんだって」ことがとても嬉しい」というような言葉がありました。やはり、自分が何かの役に立つことというのは、生きていく中でとても大事なことだと思うので、その意味で、障害者施設やいろんな幅広いところでの取り組みはとても必要になってくるんだろうと思います。

巣箱の管理とか、蜂蜜を採るという規則的な作業を通して、日常生活のリズムが整うこともあります。情緒の安定とか集中力が上がるという効果も出てくると思います。養蜂活動は、副交感神経を優位にしてストレスを軽減させる効果があるのではないかと思います。ミツバチの働きを観察したり、巣箱を管理するという過程の中で、自然との一体感を

感じ、心を落ち着ける時間を過ごすことができるのではないかと思います。ですので、養蜂活動が単なる就労の場だけではなく、自然との関わりを通してリラックスし、健康を保つためのセラピー的な効果も持つ活動にもなるのではないかと視察を通して感じるころでもありました。

副交感神経活性化でリラックス効果

自律神経を整える養蜂活動の可能性についてですが、自律神経は、私たちの体を無意識にコントロールしている神経系で、交感神経と副交感神経の2つがあります。交感神経は体を活発にする一方で、副交感神経はリラックス状態をつくり出すと言われます。この2つがバランスをとることで、私たちの心身の健康をつくり出しています。そういった中で、この養蜂活動というのは、副交感神経を優位にする要素が多く含まれているのではないかと思います。自然環境とか緑豊かな場所での活動というのは、副交感神経を活性化してリラックス効果を高めて、心理セラピーと同様の活動の効果があるのではないかと思います。規則的な作業だったり、そういった巣箱の管理といったものが自分の特性に合った繰り返しの作業が心を落ち着かせるというようなところにもつながっているんじゃないかなと思います。

自律神経とストレスの関係にはどうい

社会福祉法人あすなろ学園 障害者支援施設 母原（北九州市）視察



コミュニケーション能力の向上

養蜂活動を通して、利用者のコミュニケーション能力が向上

楽しむ様子

養蜂活動を楽しみ、絵を描いたり記録したりする様子



資料03

就労継続支援B型ゆくさ（鹿児島市）視察



花植栽

花の植栽に取り組み、達成感を感じる。



蜂蜜採取

蜂蜜の採取を通して、利用者は地域との交流を深めている。



地域イベント

地域のイベント用のグッズを作成し、交流を広げる。

資料04

のがあるのかということで、みつばち協会さんが自律神経測定器を使って、「あすなろ学園」と「ゆくさ」さんの利用者さんの調査を行っています。それも一緒に見させていただいたんですけれども、養蜂に関わる前と後でどのように変わるかということを調査されておりました。そういった中で、自律神経に与える可能性っていうものを何度か検査しております。

養蜂と動物介在活動の共通点というところで、日本獣医師会の報告書において、動物介助活動、動物との触れ合いによってストレスや血圧が低下してリラククス効果が得られるということ、そして動物介助療法では、苦痛を減らしたり、気分を改善したり、幸福感を引き出す作用があるということで、発達障害の一つ、アスペルガーの方への効果も報告されたということです（資料05）。養蜂活動も、ミツバチとの触れ合いを通して心に癒しを与えるということもあるということなので、ミツバチが蜜を集める様子を観察することで、自然の一部なんだということを感じたりするんじゃないかなと思います。そして、精神的な安定が促され、日常生活における不安の軽減も期待されていくのではないかとこのふうにも思います。

養蜂活動と森林セラピー

そして森林セラピーと養蜂についてもお伝

えますが、養蜂活動と森林セラピーにも共通点があり、どちらも自然環境を活用して心身のラクゼーションを促進する活動です。ただ、養蜂活動はミツバチの世話やミツバチの採取といった具体的な作業を通して達成感を得られる点が独自性でもあるのかと思います。そういった意味で、精神的な癒しに加えて、社会での役割を感じるということがとても大きな役割になってくるのではないかとこのふうにも思います。

障害者支援と地域社会の活性化

蜂蜜とか蜜蝋ですとか、プロポリスといった養蜂関連の製品、市場で高い需要があったりします。蜂蜜大好きな方も多いですので、そういった地域ブランドとして販売される蜂蜜は高い付加価値もついてくるので、障害を持った方をはじめ多くの方が関わることで、その地域の特産品としての魅力を高めていたり、製品を通していろんな収益、経済的な自立ができるような地域活性化につながる点でもとても重要だと思います。

農福連携、養蜂の可能性としてというところでは、それぞれの障害を持った方々にそれぞれの特性に応じた柔軟な作業内容を提供するというのがポイントになります。また、製品の製造から販売まで一貫したプロセスを経験することで、障害を持っても経済活動の

中心的な役割を担える可能性もあるということです。農福連携の可能性としては、この養蜂活動を核とした農福連携は、障害者支援と地域社会の活性化を同時に実現する可能性もとても秘めているんじゃないかと思います。障害を持った方が主体的に活動に参加したり、社会とのつながりを感じられる場を提供できる点が注目されているんじゃないかと思っています。

そして、これらの取り組みをどんどん広げていくことで、ユニバーサルな取り組みというか、ユニバーサル農業という言葉も挙げられておりましたが、誰もが包み込まれるような社会の実現に向けたモデルをどんどんこれから構築していくということが望まれるというふうにも思います。農福連携における各省庁の政策が相互補完的に機能して、障害者、社会的弱者の社会参加および自立支援に寄与する可能性があるという「農福連携等推進ビジョン」にもありました。そういった包括的な取



資料06

り組みが重要になってくるということです。そして、社会的および経済的自立の促進や、メンタルヘルス支援としての効果、そしてユニバーサルな支援策としての展望というものこれからどんどん広がっていくのではないかとこのようにも思っています。

農福連携+養蜂=さまざまな可能性

最後に、養蜂活動は自然を守りながら、心の健康を整える大きな可能性があるのではないかとこのようにも思います。そして、ミツバチという小さな存在が、自然環境の維持に不可欠だけではなくて、私たち自身の心とか社会をつなぐ力になるのではないかとこのようにも視察をして気付かされたところです（資料06、07）。自然の中での活動やミツバチとの触れ合いがもたらすリラクゼーション効果は副交感神経を活性化してストレスを軽減する効果もあるんだということですね。また、地域とのつながりや自分の役割を実感する喜びというのは、誰もが

がより豊かな生活を送るための大切な要素になってくるのではないかとこのようにも思います。ですので、自然を守ることが、私たち自身も守ることにつながってくるということで、心を整えてより良い未来を築くためにも、農福連携、そして養蜂が加わることで様々な可能性があるのではないかとこのようにも視察を通して痛感しました。



資料05



資料07

里山活動に養蜂が加わることでの相乗効果



株式会社ビーハイブジャパン
獣医師
渡辺 宏 Watanabe Kou

株式会社ビーハイブジャパンの渡辺と言います。今の職に就く前に地方公務員の獣医職として公衆衛生分野で働いており、人と動物の関係とかをやっていた経緯があったものですから、こういった活動に呼んでいただいて、視察させていただきました。その結果をお話をさせていただくというのが今日の発表です。

今日は「里山活動に養蜂が加わることでの相乗効果とミツバチへの配慮」という題でお話をさせていただきます。

NPO法人SCRの取り組み

NPO法人SCRさんという団体が養蜂を手がけてミツバチのための里山をつくって、近くにあった西成田教室という不登校の子たちの学校で、いろいろな活動をしたというものです。(資料01)

NPO法人SCRさんは、宮城県富谷市で活動されていまして、山沿いの休耕田を活用して蜜源植物を植えて、里山活動を行っています。私が行った時にはトウヨウミツバチを飼っていました。セイヨウミツバチも飼育されているそうです。養蜂、農業、土木の経験者が団体の中にいらっしゃって、それぞれの特性を生かして里山の維持管理を行っているということです。

一方、数百メートルのところに富谷市立富谷中学校西成田教室というのがございまして、2024年1月現在で18名の生徒さんが在籍していました。授業の一環として、2022年から1年間に12回、SCRさんの里山フィールドへ通って様々な活動を行ったということなのです。

不登校の子というのは、私も前職に関わっ

たことがあるんですけども、なかなかコミュニケーションをとるのが難しいものです。やはり、SCRさんたちのお話を伺っても、始めはほとんど話をすることも顔を上げることもなく、というようなことだったんですけども、その12回の活動を通して、蜜源植物と一緒に育てたり野菜や果物を育てて収穫したり、巣箱に絵を描いてもらったり(資料02)、そういうことを重ねていくうちに、だんだんだんだんと明るくなって行って、団体の方たちと仲良くコミュニケーションがとれるようになったと。私が行ったときは「本当にみんな不登校の子なの?」みたいな、すごく明るい印象だったんですね。

今では生徒さんたちは花にミツバチが来ているのが気になるようになったり、防護服をつけて巣箱から蜜のたまった巣脾を取り出したり。なかなか初めての方たちには恐ろしいハードルの高いことなんですけれども、そういうことを率先してやるような子たちも中には出てきたようです。皆さんコミュニケーションがとれるようになってきて、明るく楽しそうに声を掛け合いながら作業をするようになって。そういうことを考えた時、やはりミツバチというのはおそらく始めは怖い存在だったと思うんですけども、蜂蜜を上手に使いながら、蜂蜜おいしいな、ミツバチを見る、蜂蜜おいしいな、みたいないいイメージがだんだんついていく。そういうふう

にコミュニケーションを深めていくところで、だんだんだんだんと理解が深まったのかなと推察されます。

里山活動に養蜂が加わる意義

そういった事例だったんですけども、このことを元に里山活動に養蜂が加わる意義について考えてみたいと思います。里山活動というのは環境保全の一環ですけども、これに養蜂が加わると、やはり自然の循環、花粉の交配があって、新しい実ができて、種が落ちて、そして次の芽が出るというような自然の循環というものに理解が深まっていく。それから、だんだんだんだんミツバチに興味が出てくると、花が気になるものですけど、その花に来る他の虫たちもだんだん気になってくるものなんです。そうすることで、ミツバチだけではなくて、他の生物にも興味が広がってくる。そして、いろいろな虫が花に集まる中で、ミツバチは自分が関わっている動物ですから、「うちのミツバチ」みたいな感じで親近感というのが生まれてくるわけです。だんだんそういうふう

に親近感がわいてくると、「作業しに里山に行く」というところから、「ミツバチに会いに里山に行く」という感覚に変わってくるわけなんです。いわゆる「動物介在活動」の利点かと思います。

NPO法人SCR（宮城県富谷市）

- 山沿いの休耕田を活用
- 蜜源植物を植え
- 養蜂を軸にした所謂「里山活動」
- トウヨウミツバチ及びセイヨウミツバチを飼養
- 養蜂や農業、土木等の経験がある会員が中心となって維持管理



資料01

初めはほとんど話をすることもなかった

- 蜜源植物を育てたり、
- 野菜や果物を育てたり収穫したり、
- 巣箱に絵を描き、その巣箱で養蜂をしたり
- 長い月日をかけて様々な体験を積み重ねていくことで、少しずつ外部の環境に慣れていき、ミツバチに対する親近感が育まれていったようだ。



資料02

いったときは、「できるだけミツバチが喜ぶものにしよう」とか、畑で使う農薬に関しても、「やっぱりミツバチに優しい薬を選ぼう」とか、そのミツバチを飼っただけで里山活動というのが大きく変わっていく、影響がある。里山活動に広く影響を及ぼすということが言えると思います。

ミツバチが果たす役割

里山活動でミツバチが果たす役割ということについて考えたいんですけど、里山活動でミツバチが果たす役割はどんなものがありますか。一つには生産物の提供ですよ。蜂蜜がとれる。蜜蝋なんかもとれる。もう一つもすぐに浮かぶでしょう。送粉者としての働き。これは例えばメロンを作っていれば、形がよくなるもんですよ。イチゴを作っていれば実りも形も良くなりますし、ブルーベリーなんかてき面です。ミツバチを飼うと。そんな実感があるかと思います。

その他にミツバチが果たす役割として、多様な作業の創出。例えば、里山活動だといろんな体験をされに来る方もいらっしゃるかと思いますけれども、ミツバチに関わる作業というのは、土づくりから始まって、蜜源植物の植栽や養蜂、その後の採蜜、それを商品化をしていくことだったりとか多様な作業が、ミツバチを飼うこと、養蜂を行うことによって創出されていきます。

そして、その活動の宣伝広告としての効果も出てくるわけです。団体の中で、ミツバチを飼っていてミツバチを飼っているということ旗印にしない団体は多分ないんだと思いますね。皆さん大体、「ミツバチ飼ってます」と旗印にして、広告としても十分な効果が出てくる。

それから、先ほどから言っていますように、いわゆる動物介在活動であったり、動物介在教育としての教材としての役割というもの、特に子供たちが関わる部分に関しては非常に大きなものがあるかと思っています。

そしてもう一つ、これは気づきにくいのですが、すけれども、他の生物の食料としての役割がミツバチにはある。小型昆虫、肉食昆虫だったり、鳥だったりとか。最近、鳥が減ってきたというニュースがありました。スズメがだんだん減ってきたと。あれもおそらく虫が減ってきていることが原因じゃないかと言われているんですけども、他の生物の食料としての役割というもの実際にはミツバチというのがあります。ですので、ミツバチを飼うことによって、もしかしたら鳥の数が増えたりとかいうことも起こってくると思うんですね。

動物介在教育の効果

動物介在教育で期待できる効果についてお話したいと思います(資料03)。ミツバチの自然界での役割や循環を学ぶ、それから群れの

中での役割や振る舞い、これが巣箱の中での働き蜂を観察することによってわかる。働き蜂は文句も言わずよく働いている、でも、巣箱の端っこでサボってじっとしているハチはいるわけですよ。でも、そのじっとしているハチを責める働き蜂は誰もいないんですね。掃除だったり採蜜だったり、自分たちでやるべきことをやっているという、そんなことを見ながら学んでいくということもあるかもしれないです。そして、ハチというのも初めて見る時はただの怖い存在かもしれないですけど、回数を重ねて同じ巣箱に通っていくと、例えば、養蜂場だったらいくつか巣箱があるかもわからないですね。そうすると、その巣箱ごとの性格の違いなんていうのも見えてきたりするわけです。そうすると、愛着っていうのが湧いてくるんですね。「うちの子たちはいつもおとなしい」「本当に可愛い」みたいな感じで愛着が生まれて、喜びを感じるんですね。

また、動物介在活動でよく言われますけども、他人との会話がしやすくなる。シャイで、なかなかコミュニケーションをとりにくい私なんかもそうですけれども、初めて会った人と顔を見て会話をするのはなかなか苦手なものです。蜂を挟みながら、蜂の方に視線を落としながらお互いに、「かわいいね」「そうだね」とやっていると、会話が非常に楽にできるようになるということです。

そして、愛着が生まれれば、慈しみの心が生まれるものです。蜂、最盛期で4万匹くらいいるわけですが、それを潰さないように一生懸命そっと動かしたり、脅かさないようにそっと動かしたりとか、ハチの気持ちになって生きるというんですか、慈しみの心というのは育まれていくものです。

また、自分がその蜂を上手に扱えたとする、今までは怖くて、なかなか普通の人は近寄れないと思ってたものに対して、「俺、すぐくね、俺」みたいな感じで、やっぱり喜びと誇り、自信につながっていくということが言えるかと思います。

リスク管理は不可欠

今、いいところばかりを言いましたけれども、リスクというものもあるんですね。これ、すごく気をつけないといけないところで、今日私がこの話の中で一番したいところでもあります(資料04)。

主なリスクは、やっぱり恐怖と蜂に刺されることですね。今、私が「いいものだ、いいものだ」と言うと、もしかしたらこれを誤解して理解した方が、「蜂はいいものだからちょっと来い、いいから来い」みたいに、「嫌だよ、怖いよ」という人を無理やり連れてくることになっちゃうんですね。これは全然いいことではないんです。

恐怖心というのは、どんどんどんどん興味を

動物介在活動（教育）で期待できる効果

- ・ミツバチの自然界での役割や循環を学ぶ
- ・群れの中での役割や振る舞い、他個体との関係性を学ぶ
- ・愛着が生まれ、喜びを感じる
- ・他人と会話がしやすくなる
- ・慈しみの心が育まれる
- ・「喜び」や「誇り」を感じ、自信につながる
- ・その他、



資料03

リスクについて

- ・主なリスクは「恐怖」と「ミツバチに刺される」こと
- ・恐怖心 ➡ 負のイメージが増長 ➡ 興味<恐怖
➡ 恐怖を感じない距離感を保つ
- ・ミツバチに刺される ➡ 激痛 ➡ 疼痛性ショック
➡ アレルギー反応
➡ 安全な服装の徹底



資料04

遠ざけてしまう、効果を最も遠ざけてしまうことになります。人によって恐怖心というのは全然違うものです。俺は怖くなくても、相手は怖いかも分からないわけです。相手がもしも怖がっているようだったら、それを尊重して、怖くないぐらいの距離感を持って活動に参加してもらったり、絶対に無理をさせないということが非常に重要になってきます。

それからもう一つは、やはり何と言ってもミツバチに刺されることですね。もともとミツバチは自分の巣を守るために、ほ乳類に対して激痛を与えるような毒を出すんです。ただ針で刺したってそんなに痛くないんだけど、ハチの毒というのは本当にもうやる気を失う。私でも2分ぐらいやる気を失います。そのくらいの激痛なものですから、人によっては突然のショックになって、ふらふらとなっちゃうこともあるかもしれないです。また、アレルギー反応が出ることがあるんですね。アナフィラキシーの場合だと、5分から10分ぐらいで気を失ってしまうなんていうこともあり得る話です。

刺されないようにというのは、服もそうですし、巣箱に行く前の段階で、じゃあどういふことをすると刺される可能性が高くなるか、逆に言うと、どういう風にすると刺されにくくなるんだという打ち合わせをよくして、スタートさせるということが非常に重要になる。リスクについての理解を共有して、

慎重に計画的に準備をする。いくら準備しても、万が一刺されてしまうことがあるかもしれないですから、事前に空いてる病院はどこか、そこではアナフィラキシーになったときに対処してくれるのかどうかを調べて連絡先も用意する。絶対にそんなことにはならないようにしなきゃいけないんですけど、万が一の準備をしてから活動するというのは重要なことだと思うんですね。

注意点としては、(1) 防護服の適切な装着 (2) ミツバチへの接し方について十分な理解を得る (3) 養蜂に精通した人に上手にガイドしてもらう (4) 万一、刺された場合の対処も事前に確認共有しておく (5) 病気とかのトラブルを抱えてない蜂群を選ぶ——ということです (資料05)。

事前に日程を決めてしまうと、この群でやらなきゃいけないっていうことがあるかもしれないんですけど、特に秋口でダニが増えて来るシーズンだとダニが増えてくれば蜂も荒れますから、そのような群ではやらないようにするというのも重要なのかと思います。蜂群に熟知した専門家のサポートを受けて、蜂群に過度なストレスをかけないということも大事です。

ミツバチに動物の福祉を

過度なストレスという話から、動物の福祉から養蜂を考えるということをお話します

注意点

- ・防護服の適切な装着
- ・ミツバチへの接し方等についての十分な理解
- ・万一刺された場合の対処方法についても事前に確認、共有
- ・病気等トラブルを抱えていない健全で穏やかな蜂群を活用
- ・蜂群を熟知した専門家のサポートを受け、蜂群に過度なストレスをかけない



資料05

(資料06)。「動物の愛護及び管理に関する法律」で愛護動物というものが指定されているんですけども、それにミツバチは含まれないわけです。ただ、その動物の愛護及び管理に関する法律自体の趣旨には生き物としての動物としてミツバチを否定するものは何もないですね。その法律というのは、全体としてはミツバチにも有効と思います。

ミツバチに関して、動物の福祉をどういふふうに守るのかといっても、実際にミツバチが受けるストレスについては評価が難しい。犬だと、唾液でストレスを感じている、感じていないことが評価できるんですけども、ミツバチの場合、そういうものが確立してなくて、科学的にミツバチがどの程度ストレスを受けているのかというのはわかりにくいところではあります。ただ、養蜂をやってらっしゃる方ならわかりますけれども、ストレスがかかってくるとだんだん攻撃的になるので、そういうところから推察するというのが現時点でのことでしょう。

では、その動物の福祉をミツバチに対して考えなきゃいけないのかどうなのかというと、結果的には考えるべきものです。それはミツバチが家畜であるということ、それから、動物の愛護及び管理に関する法律の全体の趣旨、「生き物に対して命を大切にしよう」という趣旨を勘案しても、科学的になかなか当てはめるのは難しくても、動物福祉の5つの自由

に関してはミツバチは少なくとも考えていかなきゃいけない。

(1) 飢えと渇きからの自由:これは蜜源がちゃんとあるかな、ハチミツが実際にもう巣箱の中にいなくて餌切れになるようだったら、ちゃんと給餌しなきゃいけないよとかです。

(2) 不快からの自由:巣箱を置く場所や衛生管理とかです。

(3) 痛み、負傷、病気からの自由:ダニがあまり広がらないように管理しなきゃいけないということもあるかと思います。

(4) 恐怖、抑圧からの自由:あまりストレスかけちゃいけないよとかです。例えば、何にも教育していない子どもたちがわーっとなつて、ガチャガチャガチャといじれば、ミツバチもすごいストレスがかかるのは明白なことです。そういうことに関してはやっぱり考えていかなきゃいけない。

(5) 自然な行動をとる自由:ミツバチは自由に飛んでいますから、巣箱の移動の時だけ、閉める時間をできるだけ短くするとか、そういう程度のことですけれども。こういった動物福祉に関しても配慮しながらやっていくのがいいのかなと思います。

里山活動での養蜂、多面的価値引き出す

まとめですけれども、里山活動で養蜂を実施することで、里山活動の幅がとても広がる。それから福祉と養蜂との化学変化。本当に養

蜂の多面的な価値を引き出すことができる。それから、動物介在活動としての側面や教育的意義など、相乗効果と言えると思います。その一方で、リスク管理は入念にして、人にもミツバチにも優しい活動をしましょう。

資料06

動物福祉 5つの自由の観点から

- ・**飢えと渇きからの自由** (蜜源、花粉源、水源の確保、定期的な内検、給餌の実施)
- ・**不快からの自由** (巣箱設置場所の選定、衛生環境を整える)
- ・**痛み、負傷、病気からの自由** (早期に異常を察知し、適切な対応策を実施)
- ・**恐怖や抑圧からの自由** (ストレスに配慮した作業、天敵からの防御、巣箱の安全保持)
- ・**自然な行動をとる自由** (巢門を閉鎖する期間は最低限、解放空間で養蜂を実施)

やさしい養蜂のはじめ方について



有限会社春日養蜂場
代表取締役

春日住夫 Kasuga Sumio

養蜂 「難しい」 から「簡単」 に

今日は「やさしい養蜂」というテーマでお話をさせていただきます（資料01）。

実は私、7、8年前に高安さんから、障害者の方に養蜂を教えてくださいと頼まれたんですけども、その時は「養蜂は非常に難しいんだ、だからそんなもの無理だよ」とお断りしたことがあります。ただ、実は沖縄でやっているんだよということで、「それを見に行かない?」と誘われ、沖縄に行きたいばかりに高安さんに付いていたんです。そこからちょっと関わるようになっていきました。

最初は難しいなと思っていたんですけど、そのうち、障害者の方にどうやって教えるのかとずっと考えてやってるうちに、まあまあ難しいかな、みたいな感じになったんですね。さらに最近、ここ2年ぐらい、実は養蜂というのは易しい、簡単なんだということに気づきました。今日は人にもミツバチにも優しくというお話をしていきたいと思います。

春日養蜂場の春日と言います。岐阜県から来ました。垂井町、関ヶ原町という2つの町で構成されている不破郡というところです。ここで養蜂をやっています。

飼育群数が採蜜群が280群、1カ所40群置い

て7カ所ということでやっています。で、1日1カ所回ると、7日間1週間かかります。雨も降ったりするんで、大体9日以内で回っていくみたいな感じでやっています。

養蜂家からの干渉を最小限に抑えた養蜂

それで、このやさしい養蜂とは何ぞや、という話になるんですが、「養蜂家からの干渉を最小限に抑えた養蜂」ということになります。つまり干渉しないんです。どちらかというと、ミツバチ任せというような感じになります。

それはなぜかという、ミツバチは自分たちで生きていけるんです。はっきり言って、放っておいても大丈夫なんです、人に都合の悪い、養蜂家にとって都合の悪いことがあります。分蜂なんか、逃げていっちゃうので、これはコントロールしないといけないですね。あと、外敵から守ってあげる。ミツバチヘギイタダニとかスズメバチとかクマですね。こういう外敵から守ってあげる必要があります。

「養蜂家からの干渉を最小限に抑えた養蜂、なんだそれ?」みたいな感じですが、まずミツ

バチから見た養蜂家を考えます。

養蜂場へ行って、蜂箱の蓋を開けます。そうするとミツバチはどうするか? 巣を守るために向かってきます。攻撃をしてくる。ミツバチは触られたくないんです。基本的に触ってくれるなということなんですが、養蜂家としては触らないといけなから、触ります。その触る頻度をなるべく少なくするというになります。ミツバチから見た養蜂家は「外敵」です。特に蜂児圏。育児をしている場所ですね。赤い風船があります（資料02）。この場所は、34～35度くらいに保たれています。ここが一番なデリケートな部分になるので、なるべくここは触れないようにという養蜂になります。

養蜂の基本

今日の話の前提なんですけれども、まず採蜜群です。採蜜群を説明します。

種蜂に5枚群、4プラス1ってあると思うんですが、これが採蜜群の最低ラインとなります。あと2番目は女王蜂の翅切り。この女王蜂

やさしい養蜂とは

養蜂家からの干渉を最小限に抑えた養蜂

ミツバチは 自分たちで 生きていける

分蜂をコントロールする

外敵から守る

ミツバチヘギイタダニ

スズメバチ

クマ



養蜂家

資料01

養蜂家からの干渉を最小限に抑えた養蜂 ???

ミツバチから見た養蜂家 → 外敵

蜂児圏を大切に



資料02

は片方の翅を切っており、マーキングがしてあります。これは必須条件になります。

巣枠の間隔なんですけど、ビースペースは8ミリ。これは実はあんまりこだわってなくて、標準箱という箱があるんですが、そこに10枚入るとというのが条件になります。これが9枚しか入らない巣枠があります。そういうのは10枚入るように直すことになります。雄蜂の巣房はさっさと廃棄してください。使わない。基本的にこの下のところに雄蜂ができてるぐらいで、あとは働き蜂の巣房になるような巣を使っていきます。あと、養蜂場は2か所以上が必要です。

ミツバチの1年

では、簡単なミツバチの生態を説明します。卵から成虫になるまで働き蜂が21日、3週間。これだけ覚えてください。これはもう絶対に覚えておいてください。

これからミツバチの1年について話をします。

今、2月です。これから蜂がどんどん増えて

いきます。ここで分蜂、巣わかれをするということですね。半分出て行ってしまいます。ここでまた新しい女王蜂が誕生して、また増えていきます。で、ここ（資料03の図の赤線）にピークがあります。この後、右肩下がりで下がっていきます。これがミツバチの1年なんです。このピークは、大体7月20日ぐらいです。ちょうど子どもたちが夏休みになるころです。そこからはもうミツバチは増えない、右肩下がりで減っていくと覚えてください。で、そのきっかけとなるのが何かというと、夏至です。6月21日が夏至になります。夏至を過ぎると日が短くなっていくということで、ミツバチも秋、冬が来るんだという感じで産卵を少なくしていきます。

「やさしい養蜂」の1年

やさしい養蜂の1年の話をさせていただきます（資料04）。

先ほど、蜂児圏をすごく大切にしますよという話をしました。種蜂、4枚の蜂児があります。これが6枚になったら継箱をかけます。下

は空の巣が10枚です。それを放っておくとどうなるかという、ミツバチが増えます。さらにどんどん増えてくると、王台ができます。その王台を潰していきます。これは毎週やる作業なんです。それで、2段いっぱいミツバチが増えたら、女王蜂を交代する。新しい女王蜂に変える。新しい女王蜂が産卵を始めたから、ここで育児をさせる。ここに隔王板をはさみます。隔王板というのは、ここから上に女王蜂がいけないようになっています。つまり、下だけで育児をする。まだ蜂児がありますが、これはだんだんなくなって、蜂蜜だけになります。

ハチミツは、5月末に末に採蜜します。6月末もいただきます、7月が最後の蜜になるかと思いますが、これもいただきます。もう蜜は終わっている、隔王板も外します。ここに蜂児が残ります。秋に向けて減り、冬に産卵が止まります。そして春になり最初に戻ってくるようになります。基本的に何か操作してるかという別にしていない。難しいことはしていないと思います。

継箱の仕方

じゃあ、ちょっと深堀します。

継箱の仕方なんですけれども、皆さんどうやって継箱してますか。ちょっと頭に浮かべてください（資料05）。このやさしい養蜂のやり方は、下に空巣を10枚入れて、上に蜂児をそのまま入れます。さっきも説明したのですが、蜂児はすごいデリケートな部分なので、ここはあまり形を変えないように上に上げます。

上段に巣が6枚入っています。内検するのはこの6枚だけ。王台はこの6枚にしかできません。他の巣はできない。だから内検するのもこれだけで、非常に枚数が少ないので管理がしやすくなります。

プラス2って書いてあるんですが、新しい巣をあと2枚追加します。これは新巣です。真っ白できたばかりの巣を使うのですが、そこには産卵しないんです。そこは蜜を貯めてくれる。ちょうど桜の花ぐらいの時に、その新巣2枚に桜の蜜、桜系の蜜が入ってくれ

ミツバチの1年

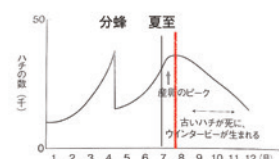


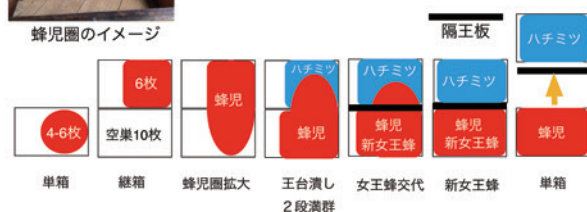
図3-46 大まかなコロニー成長のイメージ
春の落ち込みは分蜂。秋の落ち込みは越冬蜂の死
<http://scientificbeekeeping.com/old-bees-cold-bees-no-bees-part1>

資料03



蜂児圏のイメージ

やさしい養蜂の1年



資料04

継箱の仕方 (蜂児圏が6枚)

上段 蜂児巣6枚 (+新巣2枚)

下段 空巣10枚

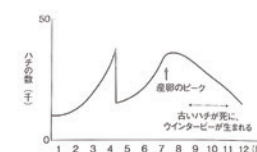


図3-46 大まかなコロニー成長のイメージ
春の落ち込みは分蜂。秋の落ち込みは越冬蜂の死
<http://scientificbeekeeping.com/old-bees-cold-bees-no-bees-part1>

資料05

ます。その2枚を絞るということができます。
この時点で隔王板をかけていると、そういう
蜜が採れないと思います。

内検

内検は、見ているのは先ほどの6枚ですね。
卵とか女王蜂は見えていないです。基本的に幼
虫を見ているということになります。(巣枠
を)上げて、幼虫あるなど。それで、下を見
て王台がなければ、もうこれで内検は終わり
という形になります。王台ができていた場合
は、王台を潰します。それで、ミツバチを増
やしていくということになります。内検の間
隔は1週間以内ということになります。9日ま
では大丈夫なんですけど、10日間隔が空いて
しまうと分蜂されます。ですから、基本的
には毎週曜日を決めて、日曜日に内検するん
だよというやった方がうまくいくと思います。

王台潰し

先程、王台潰しと言いました。王台潰しを
して、継箱2段にミツバチがいっぱいになっ

た女王蜂を交代します。それで、2段箱がいっ
ぱいのミツバチになるとどうなるかとい
うと、内検が非常に大変になります。巣枠にミ
ツバチがいっぱいついてる。見るのが大変な
のでどうするかというと、軽く払うんです。
このやり方だと2段上にかかっているんで、下
にミツバチがおりるので非常にやりやすくな
ります。単箱だと払ったらミツバチが行くこ
ろがないので溢れ出んです。そうすると作業
が大変になります。

ここに王台があるんですが、実はもう1個王
台があるんです(資料06)。こういうのはよく
見落とします。ですので、ミツバチを軽く払
って見るが必要になってきます。

女王蜂の交代

女王蜂をどうやって交代させるのかとい
うと、旧女王蜂をつまんで、ぱいっと抜けば
いいんです。王台が残っているんで、王台を1
個残して。そうすると、新しい女王蜂が誕生
します(資料07)。

今、女王蜂をぱいって言いました。これは

もったいないので、どうするかというと、ミ
ツバチの付いた蜜巣を抜き出して、別の場所
で飼育します。そうすると、11月には3倍ぐ
らになります。

新女王蜂が誕生すると、もう王台はできま
せん。分蜂しません。だから、内検もしなく
てもいいような状況になる。ただ、内検しな
くてもいいといっても、2週間に1回ぐら
いは見てあげてください。「いや、分蜂する
んじゃない?」って思う方がいるかもしれ
ないんですけど、心配だったら翅を切ってお
けばいいですからね。

隔王板は、新女王蜂が誕生して初めて使用
します。今、日本の養蜂では、継箱をかける
時に隔王板はセットだという感じがありま
す。本を見てもYouTubeを見てもそうなん
ですけど、隔王板は採蜜の道具だという形
で使っていただきたいなと思います。

採蜜

これがハチミツを搾ってるところですね
(資料8)。基本的にハチミツがたまるのを待

つだけという形でやっていきます。これは実
は、作業所でやっているんですね。エアコン
がかかっているんです。ミツバチはいないで
しょ? いまませんよね。ということは、刺さ
れるのが怖い人でも作業ができるんです。だ
から、福祉事業所なんかだと、養蜂担当者
は内検はしますが、ハチミツを採るのは他
の方でもできます。このあと、遠心分離器で絞
ってハチミツを採って、瓶詰めして売るなり
、加工して売るなりします。

包丁で切ってますが、落としているのは蜜
蓋といいます。これは蜜蠟でできています。
この蜜蠟からロウソクとかハンドクリーム
とか、そういうものを作ることができます。
そういうものを作るのは他の利用者さんでも
可能です。

この蜜巣はイベントに持っていくと非常に
好評です。また、ハチミツ絞り体験で、蜜
蓋にスプーンを突っ込んでみんなに食べて
もらうと、皆さん非常に喜んでいただけます。

ダニ対策

女王蜂を2週間隔離をします(資料9)。一

王台潰し
王台潰しで 蜂数を増やす
2段箱に蜂がいっぱい
女王蜂を交代





資料06

新女王蜂の誕生

王台はできない
(但し巣板は10枚以上)

内検は しなくても良い

隔王板を使用する
(女王蜂は下段)

ハチミツ
蜂児
新女王蜂



交尾飛行から帰ってきたばかりの女王蜂

資料07

ハチミツが貯められるのを待つ



資料08

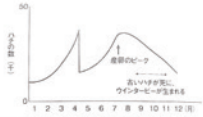
ダニ対策

ダニの被害が大きい 9月 10月を乗り切る

8月下旬・11月中旬 (年2回)

女王蜂隔離期間 2週間 (有蓋蜂児を無くす)

隔離1週間後に アビバールを投与





資料09

一般的には3週間隔離すると有害蜂児がなくなるんですが、2週間でも実はなくなります。このタイミングで「アピパール」を入れていくという形ですね。

で、この薬をいつ入れるかというのはちょっと決まっていないというか、隔離したときに入れるのか、隔離後に入れるのか、この辺はまだ決まっていないというか、考え中という感じになるんですが、私は隔離1週間後にとりあえず入れてみたという感じになります。

説明するのを忘れたんですが。蜂数はもう右肩上がりでここまで増えていき、ここから下がるという話をしましたよね。ダニはもうずっと上がってってしまうんですよね。そうすると9月、10月に大きな被害が出るということになります。

ですので、いったんここで叩いておくと、何とか乗り切れるんじゃないかなと思っています。去年はこれでうまくいって、今年は結構蜂数がちゃんと残っているんですが、本来に来年同じことをやっても残るかどうかとい

う保証はちょっとないです。もう一回、11月中旬にやってみたいなと思っています。11月中旬に女王蜂を隔離する。この頃に隔離をしても蜂児自体が小さいですし、ミツバチに対してそんなに大きな影響が出ないので、この辺で隔離をし、またダニ薬を入れて徹底的に叩きたいなと今は思っています。

蜂蜜販売

種蜂、5枚群。大体これで私のところだと50キロぐらい（蜂蜜が）採れます。去年は70キロちょっと切れたぐらいで、結構豊作気味に採れました。たくさん蜂蜜を採れると当然売ります。その時にいろんなルールがあります（資料10）。

どうすればいいのかというと、実はちゃんというテキストがあります。それは「養蜂GAP」です。皆さんの手元にあるこの養蜂GAPに全て書いてあります。書いていないのは、ハチミツの販売方法ですね。2つあって、B to B（Business to Business）とB to C（Business to Consumer）。B to Cは直接販売、

お客様に売るというやつですが、これはなかなか難しい。販売するためのスキルが要ることと、すぐに売れない。すぐファンができるというわけではないので、時間がかかります。時間がかかってもいいんですけど、お金は回さないといけないので、最初はB to Bの卸販売になっていくかと思います（資料11）。

実は私、25年前にバイヤーをやっていました。蜂蜜の買い付けをやっていたことがあるんです。その時は養蜂家さんから買ってくださいとか言われなかったんで、こちらから行かないといけなかったんですけど、その時に「売ってくれませんか」と養蜂家さんのところに行きます。それで、蜂蜜の糖度とか味とかを見ます。その時に、その蜂蜜に餌が入っているかもしれない。

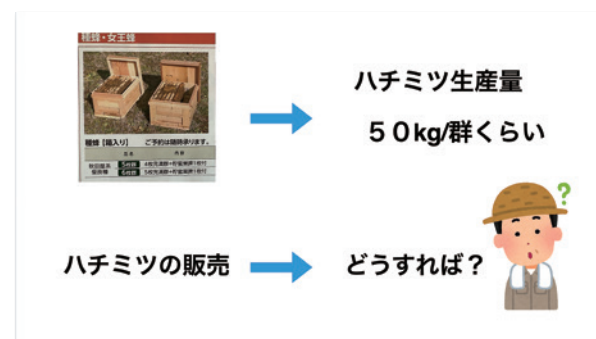
あと、変な薬が入っているかもしれない。でも、それは見分けがつかないので、どうするかというと、養蜂家さんと話をして、この人はどういう人なんだ、信頼できる人なのかというようなことを、聞き取り調査みたいな

ことをします。また、養蜂場に行ったり、作業場を見せてもらいます。そのときに汚い養蜂家さんいるんですよ。そうすると、さすがに「ごめんなさい」と。ハチミツの見た目はいいんだけど、「ちょっとごめんなさい、買えません」みたいな感じになります。

それは昔の話だったんですが、今、私がまたバイヤーになったとした時にですね、「養蜂GAPやってますよ」「チェックしてますよ」と言われると、おっ、と思います。「二者監査受けてます」と言われたら、すごいなと思います。「第三者認証を取りました」となれば、蜂蜜持って帰ります。というぐらいね、養蜂GAPをやると信頼度が上がります。ですので、ぜひ養蜂GAPに取り組んでいただきたいというふうに思います。

今日お話しした「やさしい養蜂」については、YouTube チャンネル「蜂ちゃんねる」でやってます（資料12）。3月から大体毎週動画上げてますので、よかったら見てくださいね。

ご清聴ありがとうございました。



資料10

ハチミツの販売方法

B to B（Business to Business）

卸販売

B to C（Business to Consumer）

直販



資料11

YouTube 蜂ちゃんねる



資料12

NPO法人スマイルベリー

静岡県浜松市



職業指導員

豊田一郎 Toyoda Ichiro

事業所概要

NPO法人「スマイルベリー」の職業指導員をしております豊田一郎と申します。

スマイルベリーの概要をお話しします。静岡県浜松市浜北区で、障害者就労継続支援A、B型の多機能施設を営んでおります。利用者数がA、B合わせて30名前後います。A型は、2年前ぐらいにオープンした「Naturest」（ナチュレスト）というカフェ事業と清掃に関わっています。B型は、自分が職業指導員を担当し、農業と養蜂、それから農家応援の農福連携をやっています。

支援員の作業

養蜂作業は現在、指導員1名、利用者さん2名の3名でやっています。

支援員の作業内容は、養蜂着を着て、養蜂

の道具を利用者さんと一緒に運搬をし、内検をして産卵とか女王蜂を確認しています。次に利用者さんへの声かけです。このタイミングで煙をかけてくださいとか、ムダ巢の清掃をお願いしています。

利用者の作業

次に、1人目の利用者さんの作業を解説します。

まず養蜂着を着たら、養蜂に必要な道具を出してもらいます。黄色いコンテナの中に、燻煙機やバーナー、麻布、ハイブツールなど、現場で使う道具をまとめてあります。

燻煙器の煙を起こしてもらいます。最初は火を使うので危ないかなと思っていたんですけど、注意するところを注意してもらえれば事故は起きないので、丁寧に教えて、今は完全に任せています。「燻煙器の準備をお願いします」という一言だけで、自分で麻布を巻いてバーナーで火をつけて、煙を起こすところまでやってくれています。最初の方は、「この辺に煙かけてください」と指導してんですけど、時間が経つにつれて自分でタイミングが分かってきてくれ、僕が特に言わずとも、「今ちょっと必要そうだな」「ハチが落ち着いていないな」というのを判断して煙をかけてくれるようになりました。

最後に煙を消す。ワインコルクの先端を削って、ぽんとさせば片付く。今までは養蜂場の近くにあった草を採ってきて、それをさして消火に使ってたんですけど、作業も増えるし、火が消えづらいというのがあり、ワインコルクに変えたら、作業も一瞬で完了しました。

もう一人の方の利用者さんの作業は、養蜂着を着て、養蜂の道具を運搬します。これは水を張って刷毛を入れています。養蜂作業中は、蜜が手袋についてヌメヌメして、巣枠とかが滑るので、バケツの中で手袋を洗うと、きれいになって滑りにくくなります。あと、巣枠を持つという作業を追加しました。ただ持ってるだけで、支援員が内検して、産卵とかを見ます。流蜜期の枠は重いんです。それを自分で反転させて見るのは変だったので、利用者さんに持ってもらうことで、内検に集中できるようになります。重いとだんだんと疲れてきて集中力が低下してしまうので、巣枠を持っていってもらうだけですごく助かっています。

次にムダ巢の処理です。これはハイブツールで削ってムダ巢をなくして、作業しやすいようにしてもらっています。1つ目の内検が終わって、2つ目の箱に移動する時に、もう一人の利用者さんに巣箱の蓋を閉じてもらうことでかなり作業がスムーズになってきました。最後、忘れ物がないか養蜂場でチェックしてもらっています。

配慮したところ

作業中に配慮した点は、今までは立ちながら内検などをしていたんですが、暑い時期の作業はすごく体力をもっていかれるので、椅子を使ってみました。かなり体勢も楽になり、集中力が途切れづらくなったので、これからは座りながら作業し、負担のない形でやって

いけたらと考えています。お風呂の椅子ですが、万が一ミツバチが入ってきておしりに刺される可能性をなくしたいと、真ん中の穴は塞いでいます。もう一つが、寒冷紗で日陰を作って、暑さの軽減を試みています。

自律神経測定器をみつばち協会からお借りして、測定をしました。測定することで数値で精神状態を把握できて、養蜂作業で気持ち安定して落ち着いてると目に見えてわかるので、すごく良かったと感じています。

養蜂作業に向いている利用者とは

養蜂作業に向いてる人は刺されにくいです。養蜂を始めたばかりのころは刺されやすかったです。当時は巣枠を勢い良く上げるなど雑に扱って、ミツバチにストレスがかかりやすいやり方をしてしまっていて、利用者さんも自分もすごく刺されやすかったです。慎重かつ丁寧に作業する人で、スピードがゆっくりであればあるほど、刺されにくいんじゃないかと思っています。

利用者さん2人はスピードがゆっくりです。他の作業だと、ゆっくりな人たちは課題になりがちなんですけど、逆に養蜂ではすごく活躍できる存在と気づきました。あと、動物好きの人も養蜂作業に参加してもらえるとすごく刺されにくく、楽しく作業できるのかなと思います。

採った蜂蜜の商品化

養蜂作業の中で採れた蜂蜜は、A型の最初運営するカフェ「Naturest」で商品にして販売しています。カヌレ、チーズケーキ、蜂蜜レモネードには全て自社で採れた蜂蜜を使っています。蜂蜜は単品で販売もしています。もし静岡県浜松市に来た際には是非寄っていただけたら嬉しいです。

養蜂作業で採れたハチミツは...

A型が運営するカフェ「Naturest」で、商品化・販売！



やさしい養蜂のはじめかた 活動報告

利用者さん①の作業

- ①養蜂着の着用
- ②養蜂の道具の運搬
- ③燻煙器の煙を起こす
- ④必要に応じて煙をかける
- ⑤煙を消す



ガンバワーク

神奈川県大和市



代表

黒木啓之 Kuroki Hiroyuki

事業所概要

合同会社「がんばろう」の黒木と言います。

神奈川県の県央地域で、介護施設、いわゆる通所、デイサービスを4カ所、就労継続支援B型を2カ所、パン屋さん4カ所と和食屋さん1カ所という状態でやっています。登録は250名ぐらいで、1日150人ぐらいの方が来て、お仕事をされるというところになります。

5年前に養蜂を始める

僕らの特徴をお話しさせていただきます。

農業は7年目なのですが、5年前ぐらいに市の農政課から「ハウスをやらないか」ということで、ハウスをお借りしてイチゴ栽培にチャレンジすることにしました。パン屋さんで蜂蜜を使うために、受粉用として使えないかということで、みつばち協会の高安さんに

連絡しました。

ちょうど5年前の今ぐらいだったんですけど、ガランとしたハウスに来ていただいて、割と厳しい顔で「甘くないよ」と言われました。作業が難しいというお話はなかったんですけど、「生き物だから」と酸っぱく言われました。（ミツバチを）あまり大切にしないというか、受粉だけさせるというイメージがあったのかもしれないです。来ていただいて厳しく言われたので、会社の最重要作業の中に入れていこうと熱心に指導していただき、今があります。

地域で採蜜のワークショップ

まず介護から会社を立ち上げて、高齢者が働く場所を提供したいと、パン屋さんや農業をやっていく中でミツバチを育てていくことになりました。ミツバチを飼った時に、まず代表と副代表から覚え、スタッフ、利用者さんに流していくという、長期的な目標を立てながらやったのが私たちの特徴です。なぜかという、多くの人が関わるやり方でどうやっていかなきゃいけないかとなった時に、多くの人が関わるには製造が一番早いということに気づいたからです。

まず地域の方々にパンや蜜蝋を知ってもらおう。地域の方が来るワークショップで採蜜し、

利用者さんも一緒に入ってもらおう。このやり方が一番上手にできたやり方、地域に根付いたやり方でした。ワークショップに来る地域の方が、私たちの利用者さんがどういう活動をしているか、採蜜することによって近くに感じられることが良かった点の一つだったと思います。

団地活動も得意で、公園を中心にした団地の中に畑を入れるプロジェクトがあり、そこに養蜂場を入れさせてもらいました。両方を通じて地域とつながることができた。それは採蜜体験が大きな役割を果たしたように感じます。ガラス張りの中に一群だけの巣枠を持って行って、「これが女王蜂だよ」と子どもに教えたり、そういう活動をしていく中で、地域と連携できるようになりました。

若年性認知症の利用者とミツバチ

デイサービスの中での一番の課題は、若年性の認知症の方です。行き場がなく、本人に合った介護施設がない。認知症の方は、工賃より地域に戻りたい、社会参加したいという思いがとても強いんです。養蜂は私たちもまた不慣れだし、地域も不慣れ。そういうものを地域の中で一緒にやっていくというのがやりやすかったです。

あとはワークショップの中で、採蜜のほかに蜜蝋を使ったパックやろうそくなど色々なものを作ることでもできますし、パンの中に入れるのは当たり前になります。そういう活動を通して、私たちが搾った蜂蜜をパン屋さんに行きに行くイメージもついて、地域の方がハチを通じて私たちに近寄ってくれることが増えたのがものすごく良かった。

「農福地域連携」がやりたい

利用者さんは何人か入ってきたんですけど、（ミツバチは）危ないっていう認識が強

い。刺されたら怖いというイメージがあるんですけど、逆の効果もある。3・5ヘクタールぐらいの畑の中に10人行くと、孤独や恐怖を感じる。それで、挨拶が増えるんですよね。山登りに行く人はわかると思うんですけど、ハイタッチしたり、「上でなにあったよ」とか声を掛け合う。これは、危ないところに行くから声を掛け合うという効果みたいです。

ハチも同じで、最初は怖いって言うんですけど、年下の後輩が入ってくると、「大丈夫だよ」「怖くないよ」と声掛けができるようになったり、「こうしようよ」と教えたりするようになります。作業の中では「大丈夫だよ」って伝えることが一番多い。だから、僕は蜂蜜が美味しいとか蜂蜜が採れるっていうのを最後の目的にしています。

「農福連携」と言いますが、人と繋がる、地域と繋がる「農福地域連携」を僕はやりたい。その地域連携の中に蜂蜜はとても貢献してくれている。利用者さん同士もそうですけど、恐怖を通じてお互いが連携を取りながら活動できるミツバチはとてもいい。

養蜂のメリットは膨大

これからミツバチを飼いたいという方も多いと思うんですけど、決してそんなに難しくはない。むしろメリットは膨大にある。利用者さんに対するメリット、福祉が地域に根づくメリットはとても大きいと私たちは強く感じています。それも、みつばち協会さんが丁寧にご指導いただいたり、何度も何度も足を運んでいただいたりして、やっと根付いてきたという感じになります。

今後もいろんな活動を通じて地域に連携していく中の一つにミツバチがいることは間違いないと思います。



就労継続支援B型事業所
ガンバワーク

【お仕事例】

- ☆パン作り
- ☆お菓子作り
- ☆接客・レジ業務
- ☆看板制作
- ☆畑作業
（作付け・土づくり・収穫作業など）
- ☆園芸 など...



富谷中学校成田教室と NPO法人SCR

宮城県富谷市



NPO理事長
村上幸枝 Murakami Sachie

事業所概要

今日は西成田教室の活動報告をさせていただきます。

NPO法人SCRを2012年に立ち上げ、森を守る活動をしていました。その数年後に地域の米の納屋小屋にニホンミツバチが自然巣を作って、それを保護するところがミツバチを飼うきっかけです。

現在の主な事業は、(1) まちづくりの実践 (2) 自然豊かな人とミツバチにやさしい環境を目的とした休耕田を活用した里山づくり (3) 富谷市の新たな特産品づくりとして「富谷はちみつプロジェクト」——の3つです。

今日は里山再生の「みつばちの里」についてお話しします。

令和4年5月 西成田教室体験授業を開始



「みつばちの里」と西成田教室

ここが私たちがミツバチのために蜜源作りや蜜源の野菜などを作っている「みつばちの里」の入り口です。クマが目印です。2018年からミツバチの住みよい環境づくりを目的として活動しています。この0・5ヘクタールの休耕田には、ニホンミツバチとセイヨウミツバチが共存しています。

令和4年4月、ここから200メートル先に新たな学びの場、不登校特例校「西成田教室教室」ができました。西成田教室は、里山の環境を活かした教室をコンセプトに少人数制で開講しました。地域の人たちと過ごす「総合的な学習の時間」があると聞き、私たちも何かできるのではないかとご相談させてもらったのが始まりです。

目も合わず、途中で帰る生徒も

初めて会った時、子どもたちはとても緊張していました。目を合わす子どももいなくて、途中で帰っちゃう、泣き出すなど、私たちの思っている以上の初対面を迎えました。「かわいい子にはいろんな体験をさせようよ」ということで、「みつばちの里」見学から慣れてもらいました。ヒマワリを植えたり、蜜源となる野菜を植えたり、一緒に時間を過ごすこと

各学年が協力し オリジナルの巣箱を作成



を目的に1年目は過ごしました。

最初はこちらから話をしても返答も返ってこなかったんですけども、2年目ともなると慣れ、少しずつ質問も出るようになり、声を出さなかった子どもが声をかけてくるようになりました。

巣箱作り、蜂蜜の瓶詰め体験

令和6年も4月11日、1回90分で全12回の体験授業を行いました。オリエンテーションから始まり、野菜を作ったり、蜜源の花を植えたり、竹をみんなで切ったりし、大好評だった野点もやりました。

今年は花植えの鉢植えから作りました。思い思いに好きな色を使って鉢植えに塗装をしたり、絵を描いたり。ずらりと並んでいるものが完成したもので、子どもたちも思い思いに楽しく作っていたのが印象的でした。

去年はみつばち協会より寄贈いただいた沖縄のミツバチが生徒たちのもとにやってきました。オリジナルの巣箱を作ろうということで、思い思いに好きな絵を描いてもらって、オリジナル巣箱が出来上がりました。作業としては、届いたミツバチを巣箱に入れ替えたり、採蜜体験をしたりしました。去年初めて、瓶の詰め替え体験も行いました。蜂蜜が生産・販売される一連の流れを知ることができ、子どもたちも真剣に取り組んでいました。蜜蝋作りも行って、こんなふうに商品化できるといことも学べたと思います。

「他の人と協力する作業が楽しい」

作ることが好きな子が多くて、「蜜蝋クリームとかまた作りたい」という声が多くありました。前年度と比べて、出席率も高くなりました。上級生を中心に最初からすごくいい雰囲気を作られていて、笑顔や会話がとて多くなったと思います。

特に、子どもたちが巣箱にペインティングをしたり、花植え用のバケツに思い思いの絵を描いたり、私たちの想像を超える個性が光るものができたことに感動しました。

アンケートでは、「他の人と協力する作業が楽しい」「人とのふれあい力とかコミュニケーション力が上がった」というプラスの声がたくさんあり、やっていて本当によかったと思います。先生は「アンケートに答えることはできないのではないかな」「いい答えが返ってこなかったらごめんなさい」って言われていたんですけど、思った以上に子どもたちは成長していて、この活動を通して相手を思いやる気持ちが出たことにびっくりされました。自分たちも役に立つことができるという自信が出たのでは、と先生たちとお話していました。

子どもたちが私たちに感謝の言葉の色紙をプレゼントしてくれてすごく嬉しかったし、生徒たちがつくったおもてなしの収穫祭にも呼んでいただきました。一緒に写真に写っているのは今年卒業する3年生です。学校へ行けなかった子どもたちが、西成田教室に通うことで全員が卒業を迎えることになったというのは、他の学校とは違った授業が成長や自信につながっているのだと感じています。

今後はより自主的に

今後の目標は、定期的なミツバチのお世話とミツバチの生態学習、採蜜までの作業を自主的にできることを目指したいと思います。そして、自分たちが育てたハチさんの蜂蜜を瓶詰めし、ラベルデザインを自分で考え、蜂蜜販売、そして接客体験までできたら、最高の1年になるのではないかと考えています。

このみつばちの里は、10代から80代までの世代間交流の場にもなっています。こういう活動を広め、居場所を増やせば嬉しく思います。



農福連携養蜂講習会
ミツバチシンポジウム2025 第1部
開催報告書

発行 日●2025年3月8日

発行・編集●一般社団法人みつばち協会

〒104-0061

東京都中央区銀座3-9-11 紙パルプ会館11F

TEL:03-6277-8000 Fax: 03-6277-8888

Mail: ginzainitiative@gmail.com

<https://honeybee.or.jp/wop/>

編集協力●杉谷健太、吉国明彦 [エンガワスタジオ]

*本事業は日本中央競馬会（JRA）畜産振興事業の
助成を受けて実施しています。

*本書で使用している文書・画像等の無断での
掲載・転載を禁止します。



一般社団法人みつばち協会